

## 韓国研修の報告書

学籍番号 22A159 氏名 山本伊織

今回の研修で初めて韓国を訪れ、韓国の薬学と文化をたくさん感じることができました。漢陽大学付属病院での研修では日本の病院との違いを感じました。病院に勤務している薬剤師の人数が29人だとおっしゃっていました。薬剤師の人数が少ないことに、驚きました。抗がん剤をつくる部屋は減圧室になっていて、音楽が流れていました。調剤室では麻薬を正しく処方するために、麻薬の処方箋と薬のシリアルナンバーを登録していました。そして麻薬は金庫に保管されていました。臨床薬局では、臨床試験で利用する薬品や書類を管理していました。薬品は温度が一定に保たれる棚に保管されていました。漢陽大学付属病院に実習に来ている学生さんからも話を聞くことができました。韓国の実習は薬局5週間、病院10週間、製薬企業3週間とアドバンスト(自分がやりたい職種)15週間を行うと知って、日本の実習とは全然違うと感じました。卒業前に色々な職種を経験できるのはとても勉強になると思うので、いいシステムだなと思いました。韓国の薬科大学では、卒業論文がないところもあると聞いて、驚きました。韓方剤市場を訪れて、印象に残っていることは匂いです。市場に入った瞬間から、様々な生薬が混ざった独特の匂いがしました。生薬を販売するお店がたくさんあって、鹿の角も売られていました。この市場の最寄りの駅には、伝統医薬器具や様々な生薬が展示されていて、とてもおもしろかったです。韓方博物館では、多くの種類の生薬や伝統的な医薬器具が展示されていました。生薬を手にとって感じられる展示もあり、オウゴンや肉桂などの匂いを嗅いで手触りを知ることができました。肉桂はシナモンのような匂いがしました。私は生薬に興味があったので、市場や博物館の見学はとても勉強になりました。ソウル大学医学博物館では、韓国の医学が発展していく過程を知ることができました。昔の医療器具を見ることができて、おもしろかったです。GC Biopharm 研究所の見学では、研究施設を見たり、この

企業が製造しているワクチンについて話を聞くことができました。製薬会社について詳しくは知らなかったのですが、実際に話を聞くことができてよかったです。漢陽大学校薬学大学連携薬局を2つ見学して、日本の薬局と大きな違いがあることがわかりました。まず、韓国では薬の一包化が主流でした。年齢に関係なく、一包化が行われており、一包化の機械も日本の調剤薬局で見たものよりもすごく大きかったです。次に、韓国には日本のようなチェーンの薬局はほとんどないということを知りました。韓国では医薬分業がはっきりしているため、処方箋の数が多いことが一店舗だけでもやっていける理由なのではないかと思いました。また、ペット用の医薬品を扱っている薬局もありとても驚きました。経営者のマインドを持つために週一回、経営のセミナーを開催している薬局もあって、薬の知識以外のことも必要なのだと思いました。日本と同じところは、薬剤師にはコミュニケーション能力が必要だということです。服薬指導を行う際に、まず患者さんをほめたり共感することで話を聞いてもらいやすくなるそうです。授業でもコミュニケーション能力の大切さを学んでいますが、この能力は世界共通なのだなと思いました。交流会では漢陽大学の学生さんと一緒に食事をしました。下手な英語しか話せなかったけど、好きなアニメの話やそれぞれの国のおすすめの食べ物の話など、いろんなことを話すことができてよかったです。また、今回の研修では韓国の薬学を学ぶだけでなく、本場の韓国料理をたくさん食べることもできて楽しかったです。今回の研修を通して、韓国の医療や薬学について知識を深めることができました。私はまだ2年生で専門的な知識が少ないので、日本の医療、薬学についてもっと学んでいたら、より韓国と日本の違いがわかったかもしれないと感じました。この研修に参加したことで、より薬学を学ぶ意欲が出ました。今回の研修で得たことを活かして、今後薬学を学んでいきたいと思います。